

中等教育コース(英語教育専攻)、「日英語比較論」(単位登録者総数 11 名)
担当教員: 秋山正宏 (英語教育講座)

「日英語比較論 (2019 年度後期)」: 授業評価アンケート結果とその考察

「日英語比較論」は、英語教員免許状取得希望学生にとっての選択科目である。授業の目標、到達目標、授業概要についてはウェブ上のシラバスを参照されたい。DP の上では、「... 得意とする分野の専門的知識を修得している(知識・理解)」に対応することが意図された授業である。

この授業は全ての回が担当者自作のワークシートに基づいて進められた。講義だけを行った最終回(第 14 回)を除く毎回の授業時に内容確認シート(出席カードを兼ねる)を用意し、学んだ内容を授業終了時に振り返ってもらった。内容確認シートは、採点した上で、必要があればコメントおよび質問に対する回答を添えて返却した。成績評価には、持ち帰りワークシートを使用した。

最終授業時に行った授業評価アンケートの結果は以下の通りである(回答者数 8)。

A あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

1. 全く意欲がわかなかった:	0/8
2. あまり意欲的に取り組まなかった:	0/8
3. どちらとも言えない:	0/8
4. やや意欲的に取り組んだ:	8/8
5. 非常に意欲的に取り組んだ	0/8
平均値:	4.00

肯定的評価(4 または 5)を行った学生数が 8/8(100%)であり、今年度の受講者は比較的意欲的に授業に取り組んでもらえたようである。5 の評価をした学生がいなかったことが残念ではあるが、今後もより多くの学生が意欲的に取り組める授業を行うことに努めていきたい。

B この授業で使われた授業資料/ワークシートについてお尋ねします。

B-1 全般的に言って、授業資料/ワークシートの作業の難易度についてどう思いますか。

1. 非常に難しかった:	0/8
2. やや難しかった:	3/8
3. ちょうどよい:	3/8
4. 比較的やさしかった:	1/8
5. 非常にやさしかった:	1/8
平均値:	3.00

授業資料/ワークシートを作成する側の狙いとしては、「ちょうどよい」あるいは「やや難しい」と感じられることを目論んでいる。この前提で結果について考えると、3 を選択した学生が 3/8(37.5%)、2 を選択した学生が 3/8(37.5%)、2 あるいは 3 を選択した学生は 6/8(75%)であり、ある程度担当者の狙い通りの数値と言える(平均値は 3.00)。他の授業にま同じようなことは言えるが、カリキュラム改定に合わせる形でこの授業で用いる資料・ワークシートも改訂、修正を行いつつある。次年度以降も、全授業資料/ワークシートを通した体系性を維持しながら、部分的な改訂、修正、調整を行いつつ授業を展開することに努めたい。

B-2 授業資料/ワークシートを通して学んだ内容は、(難易度は別に)あなたにとっておもしろい(知的好奇心をくすぐる、喚起する、といった意味)ものでしたか。

1. 全くおもしろくなかった:	0/8
2. あまりおもしろくなかった:	0/8
3. どちらともいえない:	4/8
4. 比較のおもしろかった:	2/8
5. 非常におもしろかった:	2/8
平均値:	3.75

肯定的評価(4 または 5)をした学生数が 4/8(50%)であり、辛うじて半数に達した。否定的評価(1 または 2)をした学生数がいなかったことは肯定的に評価して良い点と言えるかもしれない。

問 B-2 に肯定的評価を行った 4 名全員が問 A にも肯定的評価を行っている。一方問 A で肯定的評価を行った 8 名(これは回答者全員であるが)の内、問 B-2 で肯定的な評価を行ったのは 4 名(50%)にとどまった。今後は、受講者の意欲の高さが授業内容への興味の高まりにより反映されるように、努力を重ねたい。

問 B-1 で 1 ないしは 2 を選んだ 3 名の内、1 名(33%)が問 B-2 には肯定的評価を行い(否定的評価はなし)、逆に問 B-2 に肯定的評価を行った 4 名の内、1 名(25%)が問 B-1 では 1 ないしは 2 を選択している(3 名は 3 を選択)。授業資料/ワークシートに難しさを感じる場合、当該の内容に面白さを感じにくく、内容に面白さを感じる場合は当該の資料・ワークシートに難しさを感じる事が少ない、ということが言えるのかもしれない。

B-3 この授業で取り上げた以下の具体的な話題の中で、特に興味深いと思うもの、関心を持ったものがあれば括弧の中に「○」を記入して下さい。

日本語と英語における「主語」の重要性(第1回):	3/8
日本語の節構造と基本語順(第2,3回):	0/8
「が」を伴わない主語と日本語の複文構造(第4回):	4/8
日本語の受身文の特徴(第5回):	2/8
日本語の(疑問詞)疑問文(第6,7回):	4/8
移動に課される諸制約(第8回):	3/8
日英語の句構造と格体系(第9-11回):	1/8
文と句範疇の内部構造再考(第12,13回):	2/8
主語と目的語をめぐる節構造のその後の展開(第14回):	1/8

授業で扱った話題についての「人気投票」のようなものを行って、その上位を決定することには、教育上、学術上いずれにおいてもの意味はないであろう。とはいえ、この授業で扱った話題は、各回とも中学校および高校における英語教育、英文法教育において重要となる事柄を含むものであるから、特定の話題についての回の印象度が特別に低い、という結果は望ましいものではない。この意味で、「興味深い」、あるいは「関心がある」と答えたアンケート回答者が0ないしは1名といった結果となった話題については、当該回の授業展開のあり方、授業資料/ワークシートの見直し等の努力を行う必要があるようだ。

C 内容確認シートについてお尋ねします。内容確認シートは、当該の回に学んだ内容を振り返ったり、理解を深めたりするのに有益だと思えましたか。

1. 全く有益には思えなかった:	0/8
2. あまり有益には思えなかった:	0/8
3. どちらとも言えない:	3/8
4. 比較的有益なように思えた:	2/8
5. 非常に有益なように思えた:	3/8
平均値:	4.00

肯定的評価(4 または 5)をした学生が 5/8 (62.5%), 否定的評価(1 または 2)をした学生はいなかった。内容確認シートの意義については、比較的高い評価を得たようである。内容確認シートは平常点を算出する上で重要なアイテムでもあり、次年度以降も改善を加えつつ使用を継続して行きたい。

D あなたは、この授業を通して、外国語としての英語、あるいはより一般的に人間の言語が持つ規則性に興味・関心が向くようになりましたか。

1. 全くそういった興味・関心が持てなかった:	0/8
2. あまりそういった興味・関心が持てなかった:	0/8
3. どちらとも言えない:	1/8
4. そういった興味・関心をやや持つようになった:	5/8
5. そういった興味・関心を非常に強く持つようになった:	2/8
平均値:	4.125

肯定的評価(4 または 5)をした学生数が 7/8 (87.5%)であり、かなり高い結果が得られた。少なくとも、ある程度言語の規則性についての関心を掻き立てることが出来たと考えてよいだろう。

問 D で肯定的評価をした 7 名の内、7 名(100%)が問 A で、4 名(57%)が問 B-2 で肯定的な評価を行っている。問 B-2 において肯定的な評価を行わない学生の一部を問 D での肯定的評価に導くことが出来るような内容の授業だったという点で肯定的に受けとめて良いのかもしれない。なお問 A で肯定的評価をした 8 名(これは回答者全員であるが)の内、7 名(87.5%), 問 B-2 で肯定的評価をした 4 名の内 4 名(100%)が問 D で肯定的な評価をしている。こちらはある意味、自然な結果と言えるのであろう。

F 最後にこの授業全体を振り返って、何か一言

授業について否定的な評価を書いた学生はいなかった。

まとめ

アンケート結果から判断する限り、今年度のこの授業は、受講者の意欲を高めることが出来ているかどうか(問 A)、内容が受講者の知的好奇心を喚起し得るものになっているかどうか(問 B-2)、英語、あるいはより一般的に人間の言語が持つ規則性への興味・関心を高めることが出来たか(問 D)、といった点で、ある程度肯定的に評価して良い面があったと考えられる。今後も授業改善への努力を重ねたい。

地域社会を核とした教育と研究のつながりについて: この点を強く意識した授業内容は設定しなかった。これは、英語学にせよ、日本

語学にせよ、より一般的に言語学にせよ、愛媛という特定の地域の中だけに存在する研究分野でないことを反映する。ただし、学習指導要領等を再度見直して、この授業以外の英語学関連の授業も併せて、取り扱う内容、展開の順番等の検討は続けていきたい。